
JUDE&It;罪を償う者たち>

ブレット

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

JUDE>罪を償う者たち<

【Nコード】

N8069X

【作者名】

ブレット

【あらすじ】

聖峰学園に通っている異能の力を持った少年、秋雨。とある帰り道一つの事件に立ち会い、その場の戦闘に介入する。その場にした不可解な事件を担当していた警察の特務部隊から、その事件の原因がおじいちゃんが言っていたルシファーたちの物だと発覚し奴らを倒すため特務部隊と結託し、殺すことを止めさせるため立ち向かう。

だが奴らの場所が分からなく、どんなに散策しても見つかることはなかった。途方にくれていたその時、奴らから直接接触があり相

手の相図と共に戦闘が開始された。

異能の力を使って人殺しを行う奴らを食い止めることができるのか。

俺はお前らを償わせる

第一章 始まりの対面

「お前はいつかルシファーと呼ばれる、異能の力を持ち殺戮衝動が激しい人間と対峙するときがきつと近い将来ある」

ここは街中とは違い、どこか穏やかな片田舎に建っている俺のおじいちゃんが住んでいた場所だ。小さい頃に俺は、おじいちゃんにあずけられ中学二年の頃まで一緒に住んでいた。

「ルシファーって何？」

俺の問いに笑顔で答えてくれた。

「混沌^{ルシファー}つてのは人に害をなす事をする人たちのことだよ。元々は普通の人間だったんだが、突然一部の人間の中で異能の力に目覚める集団が現れたんだ」

「異能？」

「そうだ、お前のなかにもその力は宿っているんだぞ」
一息。

「最初の頃はその力を人に役立てられる物として使おうと考えていたんだが、いつの日かその力を悪に使おうとした奴ら集団とそうではない集団に別れたんだ。悪に使おうと考えた奴らは自分のやりたいうように力を使い、あつてはならなかった殺人を犯した。それが事の原因となり、殺人に染まったそいつらから生まれいでる子供たちはみんな殺戮衝動が強いものばかり生まれてくるばかりで、成長と共に人を次々と殺していたんだ。そして、そいつらをずっと放置していたもう半分の集団はそいつらの殺人をやめさせようと動いた。だが奴らは殺人を止めなかった。それどころか止めさせようとしていた奴らにまで牙を剥き、殺そうとしてきた。そして止むを得ず反撃に出た。その頃から今に至るまで対立をしているってわけだ」

おじいちゃんの説明に黙り込む。

「どうした？」

そんな俺を心配して顔を覗き込む。

「おじいちゃん……、説明むずすぎて全くわからない」

おじいちゃんが説明している中、俺の頭の中では難しすぎる内容のせいで混乱を始めていた。全くといっていいほど分からなすぎたため幼かった俺にとって理解するどころか全部聞けるかどうかの所だった。

俺が頭を抱えている中、ガハハハと俺の頭を力強く撫でる。

「っ……痛いよう、おじいちゃん」

「おっと、すまんすまん。そうか確かにまだ幼いお前にとって難しすぎる内容だったようだな」

「でも少し分かったことがあったよ」

「うん？どんなことだ？」

「おじいちゃんが言った事は少しも理解できなかったけどね、一つきずけたのは俺らがただ襲われるだけの人間を守る、そういうことですよ？」

その言葉におじいちゃんは口を開け驚いた表情になる。

「そういうことだ。よく理解したな！」

また笑顔になり俺の頭をかき回すようになでる。

「痛いって〜」

こつこつに撫でられるのは慣れてはいるのだが、慣れてわいても痛いのは痛いため我慢できない。俺は半ば半泣きでおじいちゃんに顔を向ける。

「ガハハハハハ！じゃあそのためにも鍛錬を続けようか」

「え〜、また組手をするの？」

おじいちゃんの家に来てから毎日のように鍛錬を続けている。ここに初めて来て、修行を初めた頃はあまりにも嫌で仕方がなかったが、続けていくと楽しいという感情が芽生えてきておじいちゃんに勝つという目標に向けて頑張るようになった。最初の頃よりは強く

なつた実感はあるのだが、まだ全くと言っていいほど勝てる気がしない。

「この俺に勝ちたいんだろ？なら鍛錬を続けないと駄目だろ？」

「……うん……。分かった、僕頑張る！そしていつかはおじいちゃんに絶対勝つから」

「そうかそうか、なら俺も負けられないように頑張るかな」

「え〜！これ以上強くなったら駄目だよ〜」

大好きなおじいちゃんと共に道場へと向かう。大好きなおじいちゃんに手をひかれ楽しそうな笑顔とともに。

「うん……。あれ寝ていたのか俺は」

窓際の前から三つ目という微妙な席位置。窓から差し込んだ暖かな光に当てられ、軽く開けた目蓋に差し込んだ光に眩しさを感じる。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能たんのうしてください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8069x/>

JUDE<罪を償う者たち>

2011年10月22日03時43分発行